

令和 元 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079700201		
法人名	医療法人 上野病院		
事業所名	グループホームあがの		
所在地	福岡県田川郡福智町上野2678-1		
自己評価作成日	令和元年 6月18日	評価結果確定日	令和元年 7月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	令和元年 7月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療機関(上野病院)であり、院長が施設長であるため、急変時なども対応してもらえるため心強い。ホーム内で、毎月勉強会を開催し、出席率も良い。職員間のチームワークも良く、活発に活動している。自然が豊かで、環境も良い。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本人の出来ることや出来る可能性のあることの支援が、生きることを支援することとの新理念を玄関に揭示し、定期的な会議や勉強会で理念の共有に努めている。働きやすい職場なため、外国籍の職員や再就職、派遣から正規雇用された職員たちが勤務し、職員の提案から排泄後のスキンケアの統一に一丸となって取り組んだり、傾眠傾向の改善として内服薬の変更に至った事例もある。定期的な運営推進会議で昨今話題を提供したり、家族会では入居者と会食したり、動画で1年間の暮らしぶりを報告している。そして、母体医療法人と合同の夏祭りは多様な出店や地域の方の出し物で毎回大盛況で、子供会や地元消防団などの協力を得て地域行事として根付くまでになっている。今後は認知症カフェの開催も検討中で、理念の「地域住民の一員として地域に溶け込み、その役割を果たす」を期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **南棟／グループホームあがの**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を通して、皆が同じ気持ちで支援するよう心掛けている	数年前に創り上げた「本人の出来ることや出来る可能性のあることを支援するが、生きることを支援する」との新理念を玄関に掲示している。毎月の勉強会などで全職員が同じ方向を向けるように、理念の共有に努めている	高邁な理念をさらに実践するために、具体的な月間目標の話し合いや掲示を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的ではないが、行事等を通して交流している	今年の七夕も来訪した近隣小学生と一緒に飾り付け、地域老人会主催のカラオケ大会等に参加している。母体医療法人と合同の夏祭りは多様な出店や地域の方の出し物で毎回大盛況で、子供会や地元消防団などの協力を得て地域行事として根付くまでになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、そういう機会は設けていない。運営推進会議を活用し、理解に努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催して、事業所の様々な報告を行いアドバイス等も頂いている	定期的に行われている会議では、他県施設で発生した虐待の新聞記事を話題にしたり、家族から若い職員の雇用に関する意見を伺うなど、率直な意見交換が行われている。会議録は玄関に公表している。	各ユニットの家族代表の参加はあるが、運営推進会議設置目的に鑑み、ホーム便りなどで全家族に開催日時や会議内容の報告をお願いします。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に役場の職員の方に参加して頂いている。連絡は密に取れていないが、必要な時には連絡を取るよう取り組んでいる。	日頃から地域との交流や町との連携に努めているため、認知症カフェの開催を再三勧められている。開催について、前向きに検討する予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	抑制防止委員会や勉強会などを行い、拘束をしないよう取り組んでいる。現在、玄関の施錠は行っている。	定期的に行っている委員会で身体だけでなく薬や言葉による拘束について周知し、振り返りで理解を確認している。家に帰りたいの思いを受け止めて玄関から出て行こうとする入居者に同行している。コールが使えない入居者には家族の了解を得て、夜間はセンサーを利用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会は行っているが、現在対象者がいない。	玄関に成年後見制度の案内を掲示しているが、現在まで利用はない。今後は日常生活自立支援事業や制度に関するパンフレットを整備し、入居時だけでなく随時説明する予定である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書を用いて、ご家族等に説明し理解を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、いつでも意見を反映できるようにしている。	ホーム便りを発行したり家族の来訪時に心身の状況を報告し、家族の意見の表出を促している。家族の意見は即対応し、申し送り簿で情報を共有している。昨年の家族会は17名の参加があり、入居者とともに作ったカレー等を家族と一緒に食べ、動画で1年間の暮らしぶりを報告している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見などを聞き、反映出来るような体制づくりや雰囲気作りに努めている	定期的にユニット合同や単独で会議を開催し、業務内容やケア内容を見直している。職員の提案から会議を開催することもあり、排泄後のスキンケアの統一に一丸となって取り組んだり、傾眠傾向の入居者について活発な意見交換が行われ、内服薬が変更された事例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員等は要望などがあれば相談し、代表者は出来る範囲で受け入れるよう努力している。労働環境の向上に努めている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用には、性別や年齢等を問わないようにしている。職員が生き生きと働けるような職場作りを目指している	定年がなくなり、20～60歳代の男女の職員が勤務している。離職はあるが、働きやすい職場だと再就職したり派遣から正規雇用となった職員もある。入職後や職員の段階に応じた指導や研修受講を支援し、現在認知症実践者研修を受講中の職員もいる。資格取得は給与に反映し、職員の励みとなっている。男女別の休憩場所が確保され、何より職員同士が仲が良いと職員は笑顔で話している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	勉強会を行い取り組んでいる。	日頃から入居者の排泄時のケアについて話し合い、人権に配慮したケアに取り組んでる。前回は町主催の人権研修に参加できなかったので、今年は参加や伝達講習を予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や講習会に参加できるよう取り組んでいる。現在2名、研修会受講中である。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福智町グループホーム協議会に参加し、他施設と交流し意見交換などを行っている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とのコミュニケーションを多く持ち、安心して頂けるよう心掛けている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問時など家族と話をする機会を持ち、より良い関係作りに努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時には管理者、介護支援専門員と共に家族等の要望を聞き、スタッフ間で話し合い共有し理解に努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の一員として、利用者主体の介護に努めている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族からは訪問時などに要望等を聞きだせるような雰囲気作りに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	途切れないよう努めているが、難しくなってきた	週1~2回来訪する家族もあるが、殆どの家族が月1回程度来訪している。年賀状や夏祭りのうちわ形式のハガキを入居者と一緒に作成し、家族との関係継続を支援している。町内からの入居者が多く、夏祭りは馴染みの方々との交流の場となっている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握しながら、良好な関係が保てるよう努めている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後なども関係を断ち切らず、行事等の案内や年賀状を送ったり、出来る限り支援できるよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に利用者と話をする機会を多く持ち、本人の意向を把握するよう努めている	把握した入居者や家族の意向を介護計画書に明記し、全職員で情報を共有している。担当職員が排泄のチェックや薬の管理、清掃、モニタリングに関わり、意向の把握に努めている。	把握した心身の状況や意向をアセスメントシートに印字の色を変えて書き加えるなどの工夫で、経時的な把握を期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人と話をしてアセスメントに目を通す等、スタッフ間で情報交換している		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ間で情報を共有したり、記録を活用するなどして現状を把握するよう努めている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当スタッフ、介護支援専門員、計画作成担当者などと情報交換を行い、それを反映し、皆で共有している	モニタリング結果や日頃の気づきを話し合い、現状に即したケアを実践している。帰宅願望のある日舞の名取りだった入居者に誕生会で演技を披露してもらい、居場所や役割づくりを支援したり、手順を共有し統一した排泄後のスキンケアで感染防止に取り組んでいる。	計画に挙げたケア内容に沿ったモニタリングで、理念の本人の出来ることや出来る可能性のあることの支援を期待します。また、認知症の進行の予測や見通しに配慮した介護計画の作成をお願いします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録を基に、情報の共有を行い日々の介護に反映している		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	十分ではないが、出来る範囲で対応している		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの小学校や地元の老人会との交流は定期的に行っている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切にし、かかりつけ医の受診を行っている	かかりつけ医受診だけでなく、訪問歯科や訪問看護が来訪し、適切な医療受診を支援している。家族だけでの受診を不安がる家族もあり、職員がかかりつけ医受診に同行し、家族に内容を報告している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護師による健康管理を行っている。気付きや情報などを伝え、相談し指示を仰いでいる		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、本人が不安にならないよう接する機会を多く持ち、また御家族とも密に連絡を行うよう努めている。退院時には、情報の共有を行い適切な支援ができるよう努めている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来る限りホーム内で過ごして頂いているが、重度化した場合には家族等と話し合い、必要な場合には、かかりつけ医と話し合いも行っている。	重度化や終末期に向けた方針を整備し、入居時に緊急時の母体医療機関への搬送を説明している。看取りはなく、入居者の状況に応じて、家族やかかりつけ医と随時話し合う予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	現在、実践出来ていない。今後取り組んでいく予定である		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の避難訓練は年2回行っているが、その他の災害は出来ていない	今年6月実施した夜間想定避難訓練は、立ち合った消防署から職員の動きがよいとの評価を受けたが、通報器が作動しないことが判明し、即修理している。飲料水や米、味噌などの食品やおむつなどの衛生用品を備蓄している。	地元消防団の夜回りや園庭などに避難した入居者の見守りを近隣にお願いしたり、町に災害時の福祉施設の申請をするなどで、地域と一体となった災害対策を期待します。又、備蓄台帳の整備や緊急持ち出し書面の検討をお願いします。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損なわないよう心掛けてはいるが、出来ていない場合もある	外国籍の職員も勤務し、穏やかで丁寧な対応は他の職員の模範となると管理者は話している。全職員で「〇〇さん」と声をかけ、入居者と目線を合わせた食事や服薬介助が行われている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との会話する機会を多く持ち、自己決定できるよう取り組んでいる		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の決まり事はあるが、なるべく希望に沿えるよう努力はしている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには気を配り、その人らしいおしゃれが出来るよう心掛けている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合わせて、食べやすい形や量に配慮している。後片付け等が出来る利用者さんには、一緒に行っている	献立やレシピは業者委託であるが、誕生会は希望の献立となり、おせちやひな祭りなどの行事食を楽しみ、母体医療法人の協力で餅つきをしている。調査日は昼食のカレーを「美味しいね」と話しながら、職員も同じ食事を同じテーブルで摂っている。食後は下げ膳や食器洗いをする入居者もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を用いて食事や水分摂取量に気を配り、確保できるよう努めている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。また週に1回、訪問歯科による口腔ケアや治療も行っている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄を目指し、定期的にトイレの声掛け等を行い支援している。習慣や排泄のパターンを把握するよう努力している	個々の排泄のリズムを理解しながらトイレに誘導し、トイレでの排泄を支援している。退院時は前留めのおむつだった入居者は、職員が支えて座位を保持しながらトイレでの排泄を支援し、現在はリハビリパンツで失禁もなく毎回トイレで排泄している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫を行い、予防に努めている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日や時間は決めているが、入浴を気持ちよく楽しめるよう努めている。汚染時などは個々に応じて対応している	週3回、午前中に入浴を支援している。浴槽の跨ぎができない入居者もあり、浴槽に浸かってもらいたいと簡易リフトの設置を母体医療法人に提案する予定で、職員の負担も軽減したいと管理者は話している。入浴剤で入浴を楽しんでもらっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に応じ支援している。必要な方には、午睡などの休息を行い、対応している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表を作成し、きちんと服薬の支援が出来るよう努めている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じた楽しみを把握し支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望する方がいれば対応しているが、日常的には出来ていない	気候が良い時は、玄関前のスロープに設置された椅子に座って外気浴をしたり、広い園庭を散歩している。クリスマスには他町の道の駅にイルミネーション等を見学したり、初詣に出かけている。「家に帰りたい」、「買い物に出かけたい」との希望には、職員と自宅の場所を見に出かけたり、ドラッグストアに出かけている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方しか出来ていなが、訪問販売において自分で選び購入する事が楽しみになってる。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自らは一部の方しか出来ていない。毎年、年賀状や行事の案内状と一緒に作成し支援している		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごして頂くために、清潔感を保つようにしている。混乱を招かないよう工夫している	青々と稲が育った田や畑に囲まれ、広い園庭にはシンボルツリーが枝を広げ、訪問者も穏やかな気持ちになれる。玄関を中央にT字型に2つのユニットが開所している。車寄せができる屋根付きスロープから玄関に入ると、正面の食堂やテレビの置かれた居間が見渡せる。廊下や洗面所は明るく広くゆったりとした設えで、空調が管理され、居間のソファで寛ぐ入居者もある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファやテレビを配置し、集まりやすいようにしている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て、馴染みのある家具などを設置し、本人が安心して過ごせるよう工夫している	入居者名の記載された引き戸を開けると、窓から馴染みの山並みが見える居室もある。セミダブルサイズのベット、椅子やテーブルが設置されたり、仏壇やタンスを持ち込んだり、家族写真や日舞の免許皆伝書や盛装の写真を掲示された居室もあり、居心地よい居室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室などに目印をつけ、本人に分かりやすいよう工夫している		